

西洋史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
西洋史概論	イギリス史概論(1)	2	有光 秀行	3	月	4	1	ヨーロッパ史概論
西洋史概論	イギリス史概論(2)	2	有光 秀行	4	月	4	2	ヨーロッパ史概論
西洋史基礎講読	フランス語文献精読	2	小坂 俊介	3	火	3	3	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	ドイツ語文献講読	2	浅岡 善治	3	水	2	4	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	英語文献精読	2	有光 秀行	3	金	4	5	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	フランス語文献精読	2	小坂 俊介	4	火	3	6	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	ドイツ語文献講読	2	浅岡 善治	4	水	2	7	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史基礎講読	英語文献精読	2	有光 秀行	4	金	4	8	ヨーロッパ史基礎講読
西洋史各論	冷戦の40年——「ヤル タからマルタへ」	2	浅岡 善治	6	水	3	9	ヨーロッパ史各論
西洋史各論	中世シチリアと地中海 世界	2	高山 博	集中(5)			10	ヨーロッパ史各論
西洋史各論	古典期アテナイの訴 訟文化	2	佐藤 昇	集中(未定)			11	ヨーロッパ史各論
西洋史演習	ヨーロッパ近世・近代史 の諸問題	2	杵淵 文夫	5	月	2	12	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	5	火	4	13	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	ヨーロッパ近代革命の 歴史的再検討	2	浅岡 善治	5	木	2	14	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	ヨーロッパ近世・近代史 の諸問題	2	杵淵 文夫	6	月	2	15	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	6	火	4	16	ヨーロッパ史演習
西洋史演習	ヨーロッパ近代革命の 歴史的再検討	2	浅岡 善治	6	木	2	17	ヨーロッパ史演習

科目名：西洋史概論／ European and American History(General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB31402, 科目ナンバリング：LHM-HIS204J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ヨーロッパ史概論 】

1. 授業題目：

イギリス史概論（1）

2. Course Title (授業題目)：

3. 授業の目的と概要：

近藤和彦『イギリス史 10 講』、岩波新書（新赤版）1464 をテキストにして、およそ中世末にいたるまでのイギリスの歴史を通観します。単に、むかしイギリスで何がおこったかを理解するだけでなく、いまのイギリス、またいまの日本をふくむ世界を理解する手がかりも、得てもらいたいと思います。

4. 学習の到達目標：

中世末にいたるまでのイギリス史の流れと、その主要なポイントを理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 授業全体の説明、テキスト第 1 講の 1 「イギリス史とは」（1）
- 2 テキスト第 1 講の 1 「イギリス史とは」（2）テキスト第 1 講の 2 「自然環境と先史の人びと」（1）
- 3 テキスト第 1 講の 2 「自然環境と先史の人びと」（2）
- 4 テキスト第 2 講の 1 「ローマの文明」（1）
- 5 テキスト第 2 講の 1 「ローマの文明」（2）
- 6 テキスト第 2 講の 2 「部族国家、古英語、キリスト教」（1）
- 7 テキスト第 2 講の 2 「部族国家、古英語、キリスト教」（2）
- 8 テキスト第 2 講の 3 「ノルマン複合のなかのイングランド王国」（1）
- 9 テキスト第 2 講の 3 「ノルマン複合のなかのイングランド王国」（2）
- 10 テキスト第 3 講の 1 「ノルマン征服からアンジュ朝へ」（1）
- 11 テキスト第 3 講の 1 「ノルマン征服からアンジュ朝へ」（2）
- 12 テキスト第 3 講の 2 「イングランドとウェールズ、スコットランド」（1）
- 13 テキスト第 3 講の 2 「イングランドとウェールズ、スコットランド」（2）
- 14 テキスト第 3 講の 3 「百年戦争と黒死病」（1）
- 15 テキスト第 3 講の 3 「百年戦争と黒死病」（2）、授業のまとめ

6. 成績評価方法：

授業受講状況（毎回のコメントペーパーを利用）50％、レポート50％。

7. 教科書および参考書：

近藤和彦『イギリス史 10 講』、岩波新書（新赤版）1464、2013 年。参考書は教室で適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回必ず授業前にテキストを下読みして予習し、また必ずテキストおよびノートを読み返して復習すること。さらに関連文献を読んで理解を深めることを強く要望します。

9. その他：なし

科目名：西洋史概論／ European and American History(General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB41402, 科目ナンバリング：LHM-HIS204J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ヨーロッパ史概論 】

1. 授業題目：

イギリス史概論（2）

2. Course Title（授業題目）：

British and European modern history

3. 授業の目的と概要：

近藤和彦『イギリス史 10 講』、岩波新書（新赤版）1464 をテキストにして、中世末から現代にいたるまでのイギリスを中心に西洋の歴史を通観します。単に、むかしイギリスで何がおこったかを理解するだけでなく、いまのイギリス、またいまの日本をふくむ世界を理解する手がかりも、得てもらいたいと思います。

4. 学習の到達目標：

中世末から現代にいたるまでのイギリス史を中心に西洋史の流れと、その主要なポイントを理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業全体の説明、テキスト第 4 講の 1 「1500 年ころの世界とイギリス」
2. テキスト第 4 講の 2 「主権国家と国教会」
3. テキスト第 4 講の 3 「女王の伝説、等」
4. テキスト第 4 講の 4 「大ぶりたんや国ぜめし帝王」
5. テキスト第 5 講の 1 「論争的な 17 世紀」
6. テキスト第 5 講の 2 「三王国戦争とピューリタン共和国」
7. テキスト第 5 講の 3 「王制・国教会・議会の再建」
8. テキスト第 6 講財政軍事国家と啓蒙
9. テキスト第 7 講「産業革命と近代世界」
10. テキスト第 8 講「大変貌のヴィクトリア時代」（1）
11. テキスト第 8 講「大変貌のヴィクトリア時代」（2）
12. テキスト第 9 講「帝国と大衆社会」（1）
13. テキスト第 9 講「帝国と大衆社会」（2）
14. テキスト第 10 講「現代のイギリス」
15. 授業のまとめ

6. 成績評価方法：

授業受講状況（コメントペーパーを利用）50%、レポート50%。

7. 教科書および参考書：

近藤和彦『イギリス史 10 講』、岩波新書（新赤版）1464、2013 年。参考書は教室で適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回必ず授業前にテキストを下読みして予習し、また必ずテキストおよびノートを読み返して復習すること。さらに関連文献を読んで理解を深めることを強く要望します。

9. その他：なし

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：小坂 俊介 (非常勤講師)

講義コード：LB32304, **科目ナンバリング：**LHM-HIS210J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ヨーロッパ史基礎講読 】

1. 授業題目：

フランス語文献精読

2. Course Title (授業題目)：

Introductory Reading in French

3. 授業の目的と概要：

外国語で書かれた研究成果を参照することは西洋史研究において必須であり、そのためには外国語の正確な読解能力が求められる。この授業では外国語読解能力を鍛錬するために、フランス語で書かれた古代ローマ史に関する入門的書籍を日本語に訳し、同時に古代ローマ史研究を通じての入門的指導を行なう。

4. 学習の到達目標：

1) フランス語文献の正確な読解力を身に付ける。2) 古代ローマ史に関する基礎的知識を得る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

古代ローマ史に関する入門的書籍を第 1 章から読む。予め指定された範囲のテキストを日本語に訳しておき、翻訳作業のなかで発見した未知の事柄については、事典・参考書を参照し、授業内で説明できるようノート類にまとめておく。加えて調べきれなかった事柄について授業内で質問できるよう書き留めておく。授業では基本的には一文ずつ、指名された者が訳文を発表し、その訳文の解釈 (文法的説明、訳語の選択、日本語としての自然さ) について質疑応答を通じて検討し、より正確な訳文を作成する。学期末にはそれまでに訳した文章を各自でまとめ直し提出してもらう。加えて、歴史学研究に必要な基礎的技術を獲得するための授業外学習課題を適宜実施する。

第 1 回：授業ガイダンス。テキストの説明、外国語文献講読を円滑に進めるための技術の伝授

第 2 ～ 15 回：試訳の検討。ただし、訳読の進度を鑑みて任意の回に課題発表を実施する予定。

6. 成績評価方法：

1) 日本語訳の作成と検討を通じての正確な文献読解力の習得度 (50%)、2) 文献の正確な理解に必要な調査の実践度 (30%)、3) 課題の達成度 (20%)。1 および 2 については授業および学期末の提出課題を通じて判定し、3 についてはその都度判定する。

7. 教科書および参考書：

授業には必ず文法書と辞書 (電子辞書、スマートフォン、タブレット端末も可) を用意してくること。テキストは Y. Le Bohec, *Histoire de la Rome antique* (2e édition, Que Sais-Je?), Presses universitaires de France, 2017 を予定している。テキストのコピーを初回に配布するので、受講者各自で購入する必要はない。全般的参考書として以下の 2 冊の他、第一回のガイダンスで文献リストを配布し、また第二回以降授業内で適宜指示する。

1) 長谷川岳男、桶脇博敏『古代ローマを知る事典』東京堂出版、2004 年。

2) 本村凌二『地中海世界とローマ帝国』講談社、2007 年 (= 講談社学術文庫版、2017 年)。

8. 授業時間外学習：

予習として、所定の箇所の訳文を授業前に必ず作成し、未知の事項については辞書・参考書類を用いて調べておく。加えて配布されたリストに記載された文献を読み、古代ローマ史に関する基礎的知識を得ておく。復習として、授業を通じて明らかになった誤読の訂正、未知の事項の振り返りを行ない、より正確な訳文を作成する。

9. その他：なし

- ・第一回のガイダンスでは授業の進め方、テキストの説明に加え、外国語文献講読のコツなど学習を円滑に進めるための諸技術について伝授するので、この授業の履修を希望する者は必ず出席すること。
- ・オフィスアワー・連絡方法についても第一回のガイダンスで説明する。

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LB33204, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ヨーロッパ史基礎講読 】

1. 授業題目：

ドイツ語文献講読

2. Course Title (授業題目)：

Introductory Reading in German

3. 授業の目的と概要：

演習形式によるドイツ語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する入門的指導を行う。

4. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および一定のドイツ語読解能力の涵養。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
2. 試訳の検討と討論(1)a
3. 試訳の検討と討論(1)b
4. 試訳の検討と討論(1)c
5. 試訳の検討と討論(1)d
6. 試訳の検討と討論(1)e
7. 小括(1)
8. 試訳の検討と討論(2)a
9. 試訳の検討と討論(2)b
10. 試訳の検討と討論(2)c
11. 試訳の検討と討論(2)d
12. 試訳の検討と討論(2)e
13. 小括(2)
14. 課題発表(1)
15. 中間的総括(1)

6. 成績評価方法：

出席 30% その他（受講態度、課題の達成度など）70%

7. 教科書および参考書：

Wolfgang J. Mommsen, Die Urkatastrophe Deutschlands. Der Erste Weltkrieg 1914-1918, Klett-Cotta: Stuttgart, 2002.

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：なし

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB35402, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ヨーロッパ史基礎講読 】

1. 授業題目：

英語文献精読

2. Course Title (授業題目)：

Reading English Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

専門書・論文を読めるような英文読解力を身につけると同時に、西洋史についても理解を深めることを目指します。

4. 学習の到達目標：

英語で書かれた専門的論考の読解力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

ノルマン・コンクエスト研究の現状を解説した論文集の導入部と、ウィリアム征服王の伝記を扱う論文を読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読と解説です。2 回で 1 ページ、pp. 1-6, pp. 238-240. を読む予定です。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（70%）と学期末翻訳レポート（30%。所定の授業期間に読めなかったテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。）

7. 教科書および参考書：

David Bates ed., 1066 in perspective, Leeds, 2018.（読む部分のコピーを配布します。）

8. 授業時間外学習：

所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

9. その他：なし

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：小坂 俊介 (非常勤講師)

講義コード：LB42301, **科目ナンバリング：**LHM-HIS210J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ヨーロッパ史基礎講読 】

1. 授業題目：

フランス語文献精読

2. Course Title (授業題目)：

Introductory Reading in French

3. 授業の目的と概要：

外国語で書かれた研究成果を参照することは西洋史研究において必須であり、そのためには外国語の正確な読解能力が求められる。この授業では外国語読解能力を鍛錬するために、フランス語で書かれた古代ローマ史に関する入門的書籍を日本語に訳し、同時に古代ローマ史研究を通じての入門的指導を行なう。

4. 学習の到達目標：

1) フランス語文献の正確な読解力を身に付ける。2) 古代ローマ史に関する基礎的知識を得る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

古代ローマ史に関する入門的書籍を第 1 章から読む。前期から引き続きの受講を前提とするので、後期の第一回から引き続き訳文の検討を行なう。予め指定された範囲のテキストを日本語に訳しておき、翻訳作業のなかで発見した未知の事柄については、事典・参考書を参照し、授業内で説明できるようノート類にまとめておく。加えて調べきれなかった事柄について授業内で質問できるよう書き留めておく。授業では基本的には一文ずつ、指名された者が訳文を発表し、その訳文の解釈（文法的説明、訳語の選択、日本語としての自然さ）について質疑応答を通じて検討し、より正確な訳文を作成する。学期末にはそれまでに訳した文章を各自でまとめ直し提出してもらう。加えて、歴史学研究に必要な基礎的技術を獲得するための授業外学習課題を適宜実施する。授業の最終回にはこれまで訳したテキストの正確な内容理解度を確かめるための課題発表を実施する。

第 1 回～14 回：試訳の検討。ただし、訳読の進度を鑑みて任意の回に課題発表を実施する予定。

第 15 回：課題発表

6. 成績評価方法：

1) 日本語訳の作成と検討を通じての正確な文献読解力の習得度 (50%)、2) 文献の正確な理解に必要な調査の実践度 (30%)、3) 課題の達成度 (20%)。1 および 2 については授業および学期末の提出課題を通じて判定し、3 についてはその都度判定する。

7. 教科書および参考書：

授業には必ず文法書と辞書（電子辞書、スマートフォン、タブレット端末も可）を用意してくること。テキストは Y. Le Bohec, Histoire de la Rome antique (2e édition, Que Sais-Je?), Presses universitaires de France, 2017 を予定している。テキストのコピーを初回に配布するので、受講者各自で購入する必要はない。全般的参考書として以下の 2 冊の他、授業内で適宜指示する。

1) 長谷川岳男、桶脇博敏『古代ローマを知る事典』東京堂出版、2004 年。

2) 本村凌二『地中海世界とローマ帝国』講談社、2007 年（＝講談社学術文庫版、2017 年）。

8. 授業時間外学習：

予習として、所定の箇所の訳文を授業前に必ず作成し、未知の事項については辞書・参考書類を用いて調べておく。加えて配布されたリストに記載された文献を読み、古代ローマ史に関する基礎的知識を得ておく。復習として、授業を通じて明らかになった誤読の訂正、未知の事項の振り返りを行ない、より正確な訳文を作成する。

9. その他：なし

・この授業は前期からの通年での参加を前提とする。止むを得ない理由で後期からの履修を希望する場合は担当教員に事前に相談してほしい。

・オフィスアワーおよび連絡方法については前期から変更がある場合、第 1 回で説明する。

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LB43202, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ヨーロッパ史基礎講読 】

1. 授業題目：

ドイツ語文献講読

2. Course Title (授業題目)：

Introductory Reading in German

3. 授業の目的と概要：

演習形式によるドイツ語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する入門的指導を行う。

4. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および一定のドイツ語読解能力の涵養。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 課題発表(2)
2. 試訳の検討と討論(3)a
3. 試訳の検討と討論(3)b
4. 試訳の検討と討論(3)c
5. 試訳の検討と討論(3)d
6. 試訳の検討と討論(3)e
7. 小括(3)
8. 試訳の検討と討論(4)a
9. 試訳の検討と討論(4)b
10. 試訳の検討と討論(4)c
11. 試訳の検討と討論(4)d
12. 試訳の検討と討論(4)e
13. 小括(4)
14. 中間的総括(2)
15. 総括

6. 成績評価方法：

出席 30% その他（受講態度、課題の達成度など）70%

7. 教科書および参考書：

Wolfgang J. Mommsen, Die Urkatastrophe Deutschlands. Der Erste Weltkrieg 1914-1918, Klett-Cotta: Stuttgart, 2002.

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：なし

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp

科目名：西洋史基礎講読／ European and American History(Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB45401, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ヨーロッパ史基礎講読 】

1. 授業題目：

英語文献精読

2. Course Title (授業題目)：

Reading English Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

専門書・論文を読めるような英文読解力を身につけると同時に、西洋史についても理解を深めることを目指します。

4. 学習の到達目標：

英語で書かれた専門的論考の読解力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

ノルマン・コンクエスト研究の現状を解説した論文集の、ウィリアム征服王の伝記を扱う論文を読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目から毎回訳読と解説です。2回で1ページ、pp 240.-248 を読む予定です。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（70%）と学期末翻訳レポート（30%。所定の授業期間に読めなかったテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。）

7. 教科書および参考書：

David Bates ed., 1066 in perspective, Leeds, 2018.（読む部分のコピーを配布します。）

8. 授業時間外学習：

所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

9. その他：なし

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：浅岡 善治 (准教授)

講義コード：LB63306, **科目ナンバリング：**LHM-HIS305J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ヨーロッパ史各論 】

1. 授業題目：

冷戦の 40 年——「ヤルタからマルタへ」

2. Course Title (授業題目)：

The Forty Years' Cold War: From Yalta to Malta

3. 授業の目的と概要：

今から 30 年前の 1989 年末、地中海のマルタでジョージ・H・W・ブッシュ米大統領とミハイル・ゴルバチョフソ連最高会議長が会談し、「冷戦の終結」を宣言した。しかしこの歴史的な声明も、ソ連解体をはじめとするさらなる激動の波に直ちに飲み込まれ、「冷戦の崩壊」なる奇妙な表現の一定の広がりとともに、20 世紀世界史の中に埋没しつつある。

他方で、冷戦期に関する歴史的研究は近年進捗が著しい。本講義では、それらの成果をもとに、20 世紀後半の世界を覆った「冷戦」の展開過程をおよそ時系列で再検討する。

4. 学習の到達目標：

(1) 「東西冷戦」の視座から、20 世紀後半の欧米各国史および国際関係史の概要を把握する。

(2) 近現代史の知見を基に、現代の諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス——本講義の趣旨と進め方について

2. 二度目の世界戦争と「大連合」

3. ヤルタ、ポツダムと戦後秩序の模索

4. 東西対立の構造化 (1)

5. 東西対立の構造化 (2)

6. アジアの「熱戦」

7. 平和共存と宇宙開発競争

8. 世界戦争の危機

9. デタントと多極化

10. ベトナムとアフガニスタン

11. 「新冷戦」の到来？

12. 改革と革命 (1)

13. 改革と革命 (2)

14. 冷戦の終結と「崩壊」

15. 総括と展望

6. 成績評価方法：

筆記試験を行い、その成績に基づいて評価する。

7. 教科書および参考書：

特定の教科書は使用しない。参考文献は授業の進行に合わせて随時紹介する。さしあたり包括的なものとして、アーチャー・ブラウン『共産主義の興亡』下斗米伸夫監訳、中央公論新社、2012 年；佐々木卓也『冷戦——アメリカの民主主義的生活様式を守る戦い』有斐閣、2011 年、の 2 著を挙げておく。

8. 授業時間外学習：

「各論」でありながらも内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの事由により本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主體的な努力が求められる。

9. その他：なし

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：高山 博（非常勤講師）

講義コード：LB98814, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： ヨーロッパ史各論 】

1. 授業題目：

中世シチリアと地中海世界

2. Course Title (授業題目)：

Sicily and the Mediterranean in the Middle Ages

3. 授業の目的と概要：

中世地中海に関わる重要なテーマや研究史上の問題を検討することにより、多様な文化が接触・交流・衝突した中世地中海世界の特徴と歴史の変容を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

ヨーロッパ文化、イスラム文化、ギリシャ（ビザンツ）文化が交わる中世地中海世界の特徴を理解し、ヨーロッパ中心的な中世史像を相対化する視点を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：歴史を学ぶ意味
2. ローマ帝国の遺産
3. ゲルマンと地中海
4. ビザンツ帝国と皇妃テオドラ
5. 地中海三大文化圏の比較：アラブ・イスラム、ギリシャ・ビザンツ、ラテン・ヨーロッパ
6. ノルマン・シチリア王国の成立と歴史家の視点
7. 中世シチリアの宮廷と王権
8. ドゥアーナ：近代行政組織の起源？
9. ファミリアーレス・レギスとは何か
10. 王国の権力構造
11. 中世シチリアの宗教的寛容
12. 中世シチリアにおける農民の階層区分
13. フリードリヒ二世の十字軍と「文明の衝突」
14. 地中海ネットワーク
15. 中世地中海世界から現代を見る

6. 成績評価方法：

筆記試験

7. 教科書および参考書：

教科書

本村凌二・高山博『地中海世界の歴史～古代から中世』放送大学教育振興会 2009 年

高山博『中世シチリア王国の研究～異文化が交差する地中海世界』東京大学出版会 2015 年

参考書

高山博『中世地中海世界とシチリア王国』東京大学出版会 1993 年

高山博『神秘の中世王国～ヨーロッパ、ビザンツ、イスラム文化の十字路』東京大学出版 1995 年

高山博『中世シチリア王国』講談社現代新書 1999 年

高山博『歴史学：未来へのまなざし』山川出版社 2002 年

高山博『文明共存の道を求めて』日本放送出版協会 2003 年

高山博『ヨーロッパとイスラーム世界』山川出版社 2007 年

D. Abulafia, ed., Italy in the Central Middle Ages 1000-1300, Oxford University Press, 2004

H. Takayama, The Administration of the Norman Kingdom of Sicily, Leiden, E. J. Brill, 1993

H. Takayama, Sicily and the Mediterranean in the Middle Ages, Abingdon, Routledge, 2019

8. 授業時間外学習：

なるべく教科書・参考書を読んできて欲しい。

9. その他：なし

科目名：西洋史各論／ European and American History(Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中(未定), **単位数：**2

担当教員：佐藤 昇 (非常勤講師)

講義コード：LB98815, **科目ナンバリング：**LHM-HIS305J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ヨーロッパ史各論 】

1. 授業題目：

古典期アテナイの訴訟文化

2. Course Title (授業題目)：

The Litigation Culture in Classical Athens

3. 授業の目的と概要：

前 5 世紀末から前 4 世紀にかけて目覚ましい発展を見せたアテナイの裁判制度は、民主政治の根幹をなすものであった。研究史上、制度の分析は精緻を極めたが、他方、運用面については未だ検討の余地が大きい。本講義では、当時のアテナイ市民によって訴訟がいかに運用されていたのか、とりわけ司法の利用、法定外紛争解決、法廷における裁判員説得法（レトリック）といった観点から分析を加えることで、特に古典期アテナイの訴訟文化の特性を明らかにしてゆく。

4. 学習の到達目標：

- ① 民主政期アテナイの司法について基礎的な知識を身につける。
- ② 司法制度・訴訟文化を資料に基づいて多角的な視点から論理的・批判的に考察する能力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義は以下の通りに進める予定でいるが、受講者の理解度などに応じて変更する可能性がある：

- ① 古典期アテナイの裁判制度を考える意義と分析の視角
- ② 制度と原則(1)：古典期アテナイの司法制度発展史
- ③ 制度と原則(2)：提訴から法廷へ
- ④ 制度と原則(3)：裁判員制度の「アマチュアリズム」
- ⑤ 司法の利用(1)：提訴、仲裁、和解
- ⑥ 司法の利用(2)：社会的布置と裁判戦略
- ⑦ 司法の利用(3)：牛歩戦術の発達と狙い
- ⑧ 司法の利用(4)：裏取引と公訴取下
- ⑨ 演説と場(1)：野次の効用
- ⑩ 演説と場(2)：野次の抑制
- ⑪ 演説と場(3)：野次馬の意義
- ⑫ 証明の作法(1)：法文と立法意図
- ⑬ 証明の作法(2)：法文の修辭的引用
- ⑭ 証明の作法(3)：証言の利用
- ⑮ 総括

6. 成績評価方法：

筆記試験を行い、その成績に基づいて評価する。

7. 教科書および参考書：

特定の教科書は使用しない。参考文献は授業の進行に合わせて随時紹介する。橋場弦（2016 年）『民主主義の源流 古代アテナの実験』（講談社学術文庫）が本講義の前提を理解するために、大変有用な文献である。

8. 授業時間外学習：

上記の文献を事前に読んでおくと、授業理解の助けになる。授業後には配布資料をもとに復習を行うこと。また授業時に紹介した参考文献を積極的に繙き、知識を深めること。

9. その他：なし

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：杵淵 文夫（非常勤講師）

講義コード：LB51208, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ヨーロッパ史演習 】

1. 授業題目：

ヨーロッパ近世・近代史の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

The problems of the European modern Historiography

3. 授業の目的と概要：

本授業はまず、ドイツ語の史資料を順番に訳読しその解釈を討論することを通じて、ドイツ語文献の読解能力を涵養する。同時に、卒業論文ないし卒業研究を見据えつつ、各自テーマを設定して研究動向等の調査を実施し、その成果を発表する。これらの課題を通じて、歴史研究を行うための基礎的な素養を習得する。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語の読解能力を含めヨーロッパ史の専門的研究を行う上で必要な知識や技法を身につけること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の進め方と成績評価等の確認

2. テキスト解釈の報告と討論(1)

3. テキスト解釈の報告と討論(2)

4. テキスト解釈の報告と討論(3)

5. テキスト解釈の報告と討論(4)

6. テキスト解釈の報告と討論(5)

7. 課題報告（前期中間）(1)

8. 課題報告（前期中間）(2)

9. テキスト解釈の報告と討論(6)

10. テキスト解釈の報告と討論(7)

11. テキスト解釈の報告と討論(8)

12. テキスト解釈の報告と討論(9)

13. テキスト解釈の報告と討論(10)

14. 課題報告（前期最終）(1)

15. 課題報告（前期最終）(2)

6. 成績評価方法：

授業参加の積極性 30%、課題の達成度 30%、レポート 40%

7. 教科書および参考書：

授業中に適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回テキストの邦語訳や発表準備など十分な準備をして臨むこと。

9. その他：なし

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB52404, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ヨーロッパ史演習 】

1. 授業題目：

中世ヨーロッパ史研究

2. Course Title (授業題目)：

Study in the Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

歴史学の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。

4. 学習の到達目標：

さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

通常の授業時間は、フランス語のテキストを、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第一回目は打ち合わせ。以後は訳読と質疑応答。1 ページを 2 回で読む予定です。また学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。

6. 成績評価方法：

授業参加状況 (50%) とレポート (50%)。

7. 教科書および参考書：

Yann COZ, 'L' histoire antique à l' époque anglo-saxonne tardive, L' Historiographie médiévale normande et ses sources antiques (Xe-XIIe siècle), dir. Pierre Bauduin et Marie-Agnès Lucas-Avenel, Caen, 2014.

8. 授業時間外学習：

毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。

9. その他：なし

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LB54209, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ヨーロッパ史演習 】

1. 授業題目：

ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Seminar in English: The Reconsideration of the Revolutions in Modern Europe.

3. 授業の目的と概要：

演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う

4. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
2. 試訳の検討と討論 (1) a
3. 試訳の検討と討論 (1) b
4. 試訳の検討と討論 (1) c
5. 試訳の検討と討論 (1) d
6. 試訳の検討と討論 (1) e
7. 小括 (1)
8. 試訳の検討と討論 (2) a
9. 試訳の検討と討論 (2) b
10. 試訳の検討と討論 (2) c
11. 試訳の検討と討論 (2) d
12. 試訳の検討と討論 (2) e
13. 小括 (2)
14. 課題発表 (1)
15. 中間的総括 (1)

6. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など) 70%

7. 教科書および参考書：

望田幸男・芝井敬司・末川清『新版 新しい史学概論』昭和堂、2004 年; Bailey Stone, The Anatomy of Revolution Revisited: A Comparative Analysis of England, France, and Russia, New York, 2014.

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：なし

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：杵淵 文夫（非常勤講師）

講義コード：LB61203, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ヨーロッパ史演習 】

1. 授業題目：

ヨーロッパ近世・近代史の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

The problems of the European modern Historiography

3. 授業の目的と概要：

本授業はまず、ドイツ語の史資料を順番に訳読しその解釈を討論することを通じて、ドイツ語文献の読解能力を涵養する。また、前期に引き続いて、各自で設定したテーマについて文献の調査や分析を進め、その成果を発表する。これらの課題を通じて、卒業論文ないし卒業研究の準備を完了させる。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語の読解能力を含めヨーロッパ史の専門的研究を行う上で必要な知識や方法を身につけること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の進め方と成績評価等の確認

2. テキスト解釈の報告と討論(1)

3. テキスト解釈の報告と討論(2)

4. テキスト解釈の報告と討論(3)

5. テキスト解釈の報告と討論(4)

6. テキスト解釈の報告と討論(5)

7. 課題報告（後期中間）(1)

8. 課題報告（後期中間）(2)

9. テキスト解釈の報告と討論(6)

10. テキスト解釈の報告と討論(7)

11. テキスト解釈の報告と討論(8)

12. テキスト解釈の報告と討論(9)

13. 課題報告（後期最終）(1)

14. 課題報告（後期最終）(2)

15. 授業総括

6. 成績評価方法：

授業参加の積極性 30%、課題の達成度 30%、レポート 40%

7. 教科書および参考書：

授業中に適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回テキストの邦語訳や発表準備など十分な準備をして臨むこと。

9. その他：なし

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB62405, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ヨーロッパ史演習 】

1. 授業題目：

中世ヨーロッパ史研究

2. Course Title (授業題目)：

Study in the Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

歴史学の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。

4. 学習の到達目標：

さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

通常の授業時間は、フランス語のテキストを、分担箇所を決めて読みます（前セメスターの続き）。事前に担当者が作成した訳文に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第一回目から訳読と質疑応答。1 ページを 2 回で読む予定です。また学期末には、西洋史に関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（50%）とレポート（50%）。

7. 教科書および参考書：

Yann COZ, 'L' histoire antique à l' époque anglo-saxonne tardive, L' Historiographie médiévale normande et ses sources antiques (Xe-XIIe siècle), dir. Pierre Bauduin et Marie-Agnès Lucas-Avenel, Caen, 2014.

8. 授業時間外学習：

毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。

9. その他：なし

科目名：西洋史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LB64207, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： ヨーロッパ史演習 】

1. 授業題目：

ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Seminar in English: The Reconsideration of the Revolutions in Modern Europe.

3. 授業の目的と概要：

演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う

4. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 課題発表 (2)
2. 試訳の検討と討論 (3) a
3. 試訳の検討と討論 (3) b
4. 試訳の検討と討論 (3) c
5. 試訳の検討と討論 (3) d
6. 試訳の検討と討論 (3) e
7. 小括 (3)
8. 試訳の検討と討論 (4) a
9. 試訳の検討と討論 (4) b
10. 試訳の検討と討論 (4) c
11. 試訳の検討と討論 (4) d
12. 試訳の検討と討論 (4) e
13. 小括 (4)
14. 中間的総括 (2)
15. 総括

6. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など) 70%

7. 教科書および参考書：

浜林正夫・佐々木隆爾編『歴史学入門』有斐閣、1992 年; Bailey Stone, The Anatomy of Revolution Revisited: A Comparative Analysis of England, France, and Russia, New York, 2014.

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：なし

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp